

<利益相反委員会>

利益相反委員会の活動について奥山担当理事より下記の通り報告された。

1)2021年度の利益相反自己申告書のチェックを行った。(2019-2021の3年分)

・利益相反「有」の回答 29名分

・利益相反自己申告書の記載不備 4名分(記載漏れ、白紙提出など:再提出対応)

なお、配偶者などの記載について、「利益相反を申告すべき該当者がいない」のか、「記入漏れ」かを判断できないため、記入用フォームを改定することとした。

<学術集会プログラム委員会>

学術集会プログラム委員会の活動について米田担当理事より下記の通り報告された。

1)上級演題を中心とした学術集会プログラムの内容を作成した。

2)演題採否や学術集会開催に関する課題の検討を行った。

応募演題の倫理審査、英文校正に関して検討し対応した。

3)第63回日本小児血液・がん学会学術集会優秀演題の選定を行った。

①「KMT2A再構成陽性リンパ性白血病を対象としたMulti-Antigen Specific CAR-T細胞の開発」/筆頭演者:末松正也 京都府立医科大学小児科

②「抗GD2抗体発現遺伝子を導入した間葉系幹細胞による神経芽腫新規細胞免疫療法の開発-in vitro 結果」/筆頭演者:井口雅史 京都府立医科大学小児外科

③「移植片に含まれるCD8陽性T細胞数は小児T細胞非除去ハプロ移植の予後に強く影響する」/筆頭演者:高橋信久 福島県立医科大学小児腫瘍内科

④「日本のLi-Fraumeni症候群の特徴—遺伝性腫瘍学会によるレビュー研究」/筆頭演者:山崎文登 国立がん研究センター研究所臨床ゲノム解析部門

4)Pediatric Blood & Cancer誌抄録掲載:抄録原稿の確認を行った。

<学会誌編集委員会>

会誌編集委員会の活動について滝田担当理事より下記の通り報告された。

1)57巻2号~58巻2号までを発刊した。

2)編集委員会からの報告

・JCCG(別団体)委員会からの「委員会報告」へ掲載希望への対応を行った。

・論文審査で「掲載不可」となった際のコメントの開示要望への対応を行った。今後は開示希望があれば今後開示を行うこととなった。

・学会委員会より「ガイドライン」に関する投稿への対応を行った。これまでの投稿規定にない様式であり、総説をベースに様式を変更し、「委員会報告」として受け付けた。

・2021年11月25日~27日の「第63回日本小児血液・がん学会学術集会」で講演される上級演題より、会期後に執筆依頼をする候補者の選定を行った。

<診療ガイドライン委員会>

診療ガイドライン委員会の活動について多賀担当理事より下記の通り報告された。

1)小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン、小児がん診療ガイドライン2016の改訂作業を開始した。

2)5件の転載許諾について対応した。

3)先天性骨髄不全診療ガイドライン(ファンコニー貧血診療ガイドラインおよびダイヤモンド・ブラックファン貧血診療ガイドライン)について委員会で共有し意見を提案した。

<学会賞等研究審査委員会>

学会賞等研究審査委員会の活動について滝田担当理事より、学術賞、小児がん病理病態研究学術奨励賞、大谷賞受賞者の選定を行った。ことが報告された。

[第11回学術賞]

基礎領域の固形腫瘍分野 笠原 靖史 先生

臨床領域の固形腫瘍分野 檜山 英三 先生

基礎領域の血液疾患分野 渡邊 敦 先生

臨床領域の血液疾患分野 富澤 大輔 先生

[第3回小児がん病理病態研究学術奨励賞]

白井 了太 先生

[大谷賞]

原田 和明 先生

松井 俊大 先生

また、個人が受賞する賞の受賞者として多施設共同研究の研究代表者が適切かどうか、受賞者の年齢制限や再受賞を許容するかどうか等を含む規約の改定などに着手することが報告された。

<学術・調査委員会>

学術・調査委員会の活動について藤担当理事より下記の通り報告された。

1)症例登録事業の集計と公開

「20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」をJCCG固形腫瘍観察研究、JPLSG登録システムとも連携して新規登録システムとして構築し、2018年症例からの症例登録を運用しており、今年度は2020年登録症例の集計と公開を行った。

2)疾患登録年次報告体制の整備

固形腫瘍に関する年次報告作成のため、WGを当委員会内に設置し、今後具体的な内容の検討を進める予定であることが報告された。血液腫瘍性・非腫瘍性疾患については年次報告を作成し学会誌に報告予定である。

3)症例登録事業の倫理審査体制の管理

- ・「20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」改訂第4版、アセント文書(低学年用・高学年用)の作成とHP公開を行った。
- ・施設倫理審査承認済の施設リストの更新と未提出施設への提出依頼の周知を行った。
- ・中央倫理一括審査が可能となったため、施設倫理審査未承認施設に対し、申請の取りまとめを行った。現在、理事長施設にて審査を進めている。

4)COVID-19に関するガイダンス、関連論文の調査、HPでの情報提供を行った。

5)関連研究班との事業

厚生労働科学研究班「全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究班」へ小児がんに関連する学会として出席し、情報交換を行った。

<疾患委員会>

疾患委員会の康担当理事より、各小委員会(血小板委員会/委員長:東川 正宗、造血細胞移植委員会/委員長:日野 もえ子、再生不慮性貧血・MDS 委員会/委員長:濱 麻人、止血血栓委員/委員長:加藤 陽子、白血病・リンパ腫委員会/委員長:三井 哲夫、組織球症委員会/委員長:古賀 友紀/固形腫瘍検討委員会/委員長:田尻 達郎)による活動内容が報告された。

<看護委員会>

看護委員会の活動について小川担当理事より下記の通り報告された。

- 1)JSPON「小児がん看護師」のテキスト執筆と e ラーニング制作、認定に協力した。
- 2)前委員会で企画・実施した医師・看護師・家族対象の全国調査が終了し、第 63 回日本小児血液・がん学会学術集会および第 19 回日本小児がん看護学会学術集会に、以下の4つの演題を発表登録した。
- 3)「地域における小児がんの子どもの緩和ケアの充実」を目指し、現在パンフレットを作成中である。
- 4)今期学術集会で開催される 2 学会合同シンポジウム:生きることを支えていくためのエンド・オブ・ライフケアの座長を天野委員が務める。

また、今後の活動予定として、「地域における小児がんの子どもの緩和ケアの充実」に向け、パンフレットの作成と配布、地域の訪問診療や訪問看護向けの研修会や、成人領域との協働について検討中であること、学術集会で発表する医師・看護師・家族対象の全国調査の結果を、順次論文発表の予定であることが報告された。

<教育・研修委員会>

教育・研修委員会の活動報告について盛武担当理事より下記の通り報告された。

- ・第 63 回学術集会で7つの教育セッションを実施することが報告された。
- ・地区セミナー、教育セミナー、緩和ケア研修 CLIC の予定が報告された。

なお、2024 年度より小児血液・がん専門医申請および更新に CLIC 受講が必須要件として追加されることが報告された。

<専門医制度委員会>

1)COVID-19 感染への特別対応として下記を実施した。

- ・専門医研修施設の暫定認定要件の暫定措置を 2022 年まで 1 年延長する。
- ・COVID-19 感染対策により中止になった学会等を考慮して、暫定的に 2021 年 2 月に更新予定者のうち、基準に達しなかった該当者は、1 年間の更新猶予を認める。
- ・2021 年 3 月 31 日で認定期間が終了する暫定指導医の認定期間を 2022 年 3 月 31 日まで延長する。
- ・COVID-19 感染の影響と緩和ケア研修会(CLIC)の受け入れ可能人数を鑑みて、規則の付則 21「2022 年度より緩和ケア研修会(CLIC)受講歴を小児血液・がん専門医認定申請および資格更新のための必須条件とする。」の施行を2年延期、すなわち 2024 年度からの施行に変更する。

2)第 7 回小児血液・がん専門医試験を 2021 年 9 月 11 日に実施した。

- ・2020年申請者44人、2021年申請者29人、合計73名のうち71名が受験した。
 - ・COVID-19による緊急事態宣言下での実施のため、面接試験の代わりに学会評議員もしくは研修施設責任者からの推薦状の提出にて対応)
 - ・2020年度申請の受験者で本試験に合格した者は、1年さかのぼって2021年4月1日開始で専門医認定となる(2021年度の申請では2022年4月1日認定開始)。
- 3)小児血液・がん学会専門医研修における施設群制度の開始について報告された。
- 研修施設要件に関し、日本小児血液・がん学会専門医制度規則の付則12により10年間だけ設けられていた緩和措置が2022年3月に終了となることを受け、施設現況調査の結果、多数の研修施設が認定要件を満たせなくなる可能性があることが判明したため、2022年4月より、研修施設を認定研修施設(親施設)と関連研修施設(子施設)に分け、1つの認定研修施設と、1つまたは複数の関連研修施設からなる「研修施設群」を形成していただくように2021年7月31日の総会において規則および施行細則が改訂された。また、その為、全ての施設が(施設認定期間が残っていたとしても)新規申請の必要があることが報告された。

<社会・広報委員会>

- 1)ホームページ上での本学会活動の広報について
各委員会の総会資料を総会后に更新することになったことが報告された。
- 2)国、厚労省や他学会などからのお知らせ
お知らせ欄に順次掲載おり、緊急性や重要性が高いものに関しては会員にメールでも周知していることが報告された。
- 3)各種団体から学会ホームページのリンク
委員会で審議の上リンク承認しているが、リンク依頼が増加していることからリンク申請書の書式を整えた。
- 4)ホームページのリニューアル
JPHO ニュースのバックナンバーをすべて掲載したことが報告された。
- 5)JSPHO 会員用ニュース(毎月1回配信)
記事の内容を委員会にて検討し、確認の上、配信を継続していることが報告された。

<保険診療委員会>

- 1)令和4年度診療報酬改定に関連する進捗
8月3日に行われた厚生労働省医療技術評価ヒアリングに出席し以下の3件の要望を行った
- 2)安定確保医薬品の供給不足に対する意見募集
厚生労働省より安定確保医薬品の供給不足が生じた場合の診療の選択肢の提示の検討について指示があり、委員会内で検討後、12月までに提出予定であることが報告された。
- 3)医薬品(2件)の製造販売中止に対する意見募集について、委員会で検討し、治療に支障がないと考え供給停止を委員会として了承したことが報告された。
- 4)55年通知による3件の適応外医薬品の保険償還の申請について検討中であることが報告された。
- 5)「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」への2件の要望の進捗について報告された。

- 6)令和4年度診療報酬改定にむけて、小児入院管理料を算定している施設の無菌治療室管理料加算の算定実績調査依頼があり、緊急調査結果を厚労省へ提供したことが報告された。
- 7)日本医学会経由の開発医薬品についての推薦依頼について、メール通知にて学会員へ呼びかけるなど、取りこぼしの無いよう委員会で検討し進める予定であることが報告された。

<倫理委員会>

倫理委員会の活動について、奥山担当理事より下記の通り報告された。

第63回学術集会の一般演題採否において、プログラム委員会で問題となった施設倫理委員の検討を経ていない応募演題等の扱いについての諮問を受け審議を行ない、各演題への考えをプログラム委員会へ通知した。更に、同種の問題について学会としての指針を出すべきかどうか、また、2022年4月から成年年齢の18歳引き下げの施行に伴う対応などについて、委員会での議論を行ったことが報告された。

<遺伝性腫瘍委員会(理事長諮問委員会)>

遺伝性腫瘍委員会の活動について、大賀理事長より下記の通り報告された。

- ・日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会と協力し作成を進めていた「成人小児進行固形がんにおける臓器横断的診療ガイドライン第3版」の改訂がパブコメ実施後に出版予定であることが報告された。
- ・小児血液腫瘍がんのガイドライン第2版の改訂を進めている。
- ・ゲノムの診療について、診療体系のガイドライン作成、フォローアップを含め、委員会活動として取り組むべく、今後理事会へ提案することを検討中であることが報告された。

<女性医師活躍支援委員会>

女性医師活躍支援委員会の活動について、滝田担当理事より、WG によって4つの課題に対して検討を進めていることが報告された。

- 1)評議員の継続要件の見直し
- 2)専門医・指導医の継続要件の見直し
- 3)学術集会、教育セミナーのハイブリッド形式の提案
- 4)就職情報のネットワーク整備に関して

また、第63回学術集会では、女性医師活躍支援委員会による特別企画:女性医師キャリア支援セッションを実施する。

<長期フォローアップ・移行期医療委員会>

松本副委員長より、長期フォローアップ・移行期医療委員会の活動について下記のとおり報告された。

- ・LCAS 研修会の実施
- ・「小児期発症 血液・腫瘍疾患患者のための成人医療移行支援ガイド」の作成
- ・「小児期発症血液・腫瘍疾患の成人への移行支援に関する基本的姿勢」総説の作成

3.第66回日本小児血液・がん学会学術集会会長選任結果の件

議長より、理事会審議の結果、足立壯一評議員(京都大学大学院医学研究科)が第66回日本小児血液・がん学会学術集会会長(2024年開催予定)に選定されたことが報告され、足立壯一評議員より就

任の挨拶がなされた。なお、会場の都合で、2024年の12月第1週もしくは第2週のいずれかで開催を検討中である。

4. 第64回日本小児血液・がん学会学術集会準備状況報告の件

議長は、越永従道次期会長より第64回日本小児血液・がん学会学術集会の準備状況について以下の報告がなされた。

- ・会期：2022年11月25日(金)～27日(日)
※25日、26日は集合型、27日は完全 WEB での開催予定
- ・会場：虎ノ門ヒルズフォーラム(東京都)
- ・テーマ「小児がんの子供と家族を支える」

5. その他

JCCG からの報告事項として、真部淳評議員より、公益信託日本白血病研究基金の「令和3年度日本白血病研究基金」の受賞者決定について報告された。また、来年度より、小児分野のグループ研究として小林登賞(百万円の副賞を贈呈)が新設されることが案内され、多くの学会員へ応募が呼びかけられた。

- ①清水賞(百万円)
東大小児科 加藤元博先生
- ②学会推薦による臨床医学特別賞(百万円)
埼玉小児医療センター 大嶋宏一先生
- ③毎日新聞社による毎日賞(百万円)
JCCG 血液分科会(JPLSG)
京都大学小児科 加藤格(いたる)先生
- ④一般研究賞(五十万円)
木下真理子先生(宮崎大学小児科)
- ⑤若手研究賞(五十万円)
中川俊輔先生(鹿児島大学小児科)

議長は、以上をもって一般社団法人 日本小児血液・がん学会の臨時社員総会に関するすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、議長ならびに議事録署名人がこれに記名押印する。

2021年11月25日 一般社団法人日本小児血液・がん学会 臨時社員総会

議長 大賀 正一 (印)

議事録署名人 菱木 知郎 (印)

議事録署名人 盛武 浩 (印)